



高齢者の自立に貢献・・・お弁当の宅配サービス

高齢者に対する町の在宅支援事業のひとつに、週1回の弁当宅配サービスがあります。町は社会福祉協議会を通して、弁当づくりと宅配を各地区の婦人会や漁協やフェニックスなどに委託しています。「おいしい」という評判を聞いて、昨年、大賀郷公民館で弁当を作っているところを訪ねてみました。

しくみ 大賀郷婦人会では、9人のメンバーでローテーションを組み、毎週4人で作業に当たっています。もう10年以上取り組んでいます。材料の買出しは前日に済ませておきます。仕込みは朝7時から始まり、遅くても11時までに仕上げます。1回につくるのは25食前後。夏の3ヶ月間は食材のいたみが速いので休んでいます。



清潔な作業 衛生面への配慮も万全です(写真1)。仕出し屋や給食センターと同じように、その日につくったものを少しずつ取り分けて「検食」用に保存し、食中毒などが起きた場合に備えます(写真2)。また環境への配慮から、洗って何回も使えるペークライト製のリターナブル容器を使っています。食べたあとの容器は次回弁当を届けるときに回収します。ゴミがない上に、容器代も節約できます。再使用はゴミ減量の最先端。こうした姿勢も見習いたいと思いました。

優れた栄養バランス もちろん、栄養バランスも十分に考えられています。毎週、前回とメニューが重ならないよう、安い材料でなるべく多くの品目を入れるよう、苦勞しているそうです。野菜などは、家にあるものを持参して材料にすることも多いので材料費の割には豪華なメニューができます。安くて美味しく、何よりすべて手作りというのが素晴らしいと思います。ごはんもなるべく温かく、との配慮から炊く時間も考えています。この日のメニューを見るとおかずはなんと12種類(写真3)。おいしそう。つくっているみなさんの温かい心遣いが伝わってきました。



大切な安否の確認 できたお弁当は別の方がボランティアで宅配しています。届けるときのなげない会話から、健康状態が把握できます。高齢者の安否を確認することも、この事業の大きな目的になっています。婦人会をはじめとしてみなさんの努力が、こうして高齢者福祉と自立に大きく貢献していることをあらためて実感しました。

民間での取り組み 民間でも定食を自宅まで届けるサービスを提供しているところがあります。献立は1種類でも、毎日メニューが変わるので、毎日食べれば栄養バランスのよい家庭的な食事がとれます。社員寮の食事をつくっているうちに、様々な要求がでてきて、自然に対応するようになったというのです。毎日定食を持ち帰る人もいます。車がなくて自分では取りに来られない方や思うように自炊ができない方の暮らしを、こうしたサービスが支えています。すでに高齢化社会に突入したわが八丈町にとって、民間で行なわれている事業があるのは朗報です。公的な支援とともに、こうした民間の取り組みを支援することで、一人世帯や在宅介護世帯の方々を支えるしくみを作っていくことも必要だと思いました。



12月定例議会一般質問

1. 分別収集の徹底と中間処理施設の建設を望む

管理型最終処分場の用地もほぼ決まり、建設に向けて計画が進んでいます。しかし、安易に埋め続けられればすぐに満杯になります。離島は本土に運び出すのに多額の費用がかかるので、資源ゴミの多くが燃やされたり埋め立てられたりしています。分別を徹底することで、ごみの減量と一部資源化、焼却施設や最終処分場を長く使うことができます。(1)ゴミ減量を進めるために分別収集を徹底させる考えはあるか。(2)中間処理施設についてはどのような計画があるか。

住民課長 ワークショップを月一回実施し、検討を続けている。分別できることはしていく。町が建設を迫られている施設には優先順位があり、中間処理施設は中期的計画の中で実施していく。

幸子 町は今、生ゴミや紙類の分別を実施していません。リサイクルストックヤードは荒れはて、クリーンセンターの周囲には、産業廃棄物や処理しきれないゴミが積み上げられています。ゴミの減量・選別・安定化を図るために、1日も早く中間処理施設をつくってほしいものです。町の収集状況を住民に示した上で、何をどこまで分別するのか、ゴミの有料化などについては、住民との合意が必要なので、ゴミ問題に関心のある住民を加えて議論を深めてほしいと思います。徹底した分別収集の実現と、中間処理施設の計画をすすめるために、ゴミ検討委員会の公募枠を広げ、実行力のある組織にすることを望みます。

住民課長 公募枠を広げることについては時期を見ながら前向きに考えていきたい。

汚水処理施設の建設計画が具体化はじまりました。町は、し尿と生ゴミを堆肥に変える最新施設を考えているそうですが、ただ施設を作ればそれで解決するわけはありません。処理方法が多様化する中で、目的・処理方法・建設費・維持費などを慎重に審議し、町の規模にふさわしい施設をつくってほしいと思います。(1)協議会での審議内容と計画の進みぐあいは。(2)町のし尿・汚泥の収集量を考慮して施設規模を考えていただきたい。

2. 汚水再生処理センターは島に適した規模で

幸子 この夏、新潟県舞舞の清掃センターを議員として視察してきました。汚水・汚泥の処理のほか、脱水汚泥と生ゴミで堆肥をつくり、その際発生するメタンガスで発電もするという多機能施設でした。しかし、総工費53億円の大規模施設は維持費だけで年間3億円以上かかっています。今町の計画にある同様の機能をもつ施設は20億円以上の建設費がかかると聞いています。町にふさわしい施設か疑問です。

大規模施設は建設費用がかさむ上に維持費がかかります。つくられる堆肥についても、これまでの化学肥料から堆肥にシフトし、化学肥料を使いすぎてやせた土地を堆肥で回復させ、土作りから始めるという農業振興策を町全体に広めていくことが必要です。貯留槽を大きくすれば、施設規模は小さくできるはず。資源再生設備をつけなければ補助金がもらえないと言うが、島の事情を説明して特例を認めてもらう努力もしてほしい。選択肢は1つではない。汚水再生処理施設と生ゴミ堆肥化は必ずしも同一施設でなくてもいいと思いますが、町はどう考えていますか。

企画財政課長 補助金の都合があるので、これまでの計画をすすめていくつもりだ。

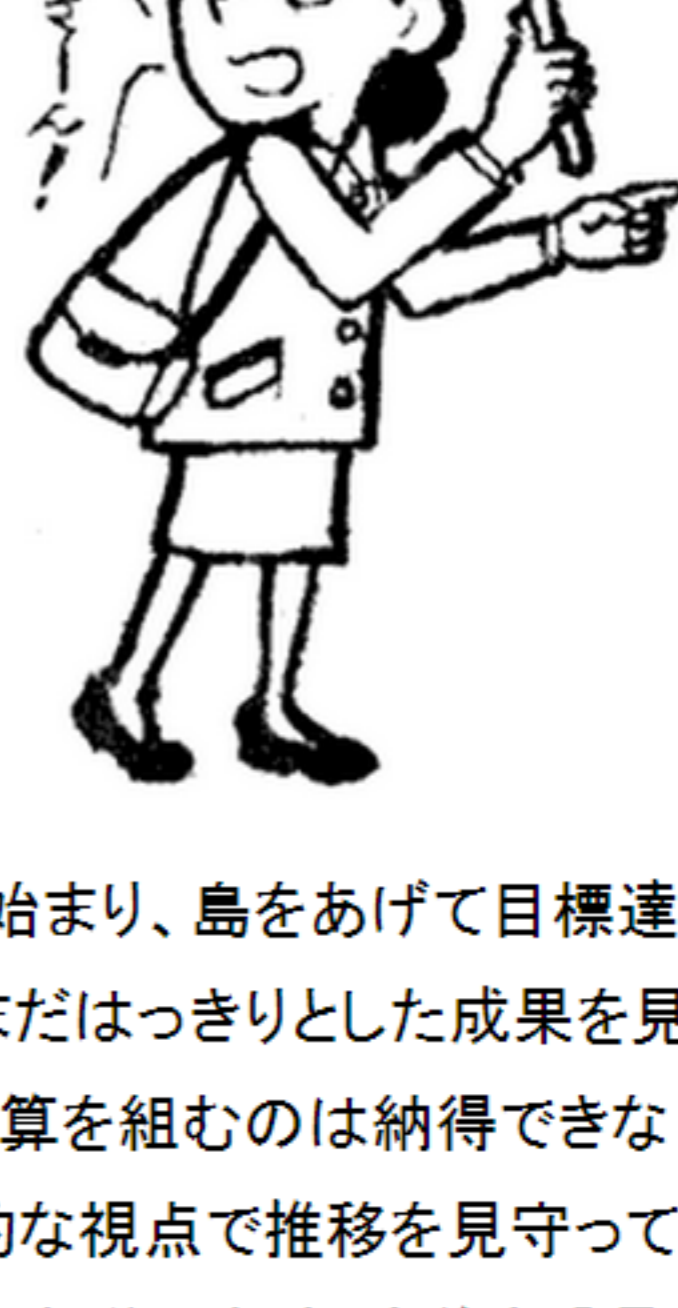
観光振興実行委員会・・・今取り組んでいること

観光振興実行委員会については、「何をしているのか中味がわからない」「こんなに金をかける必要があるのか」「観光行政をこの会に丸投げしている」などと住民から疑問をなげかけられ、議会でも度々取り上げられています。

どんな組織なのか この委員会は、観光協会から8名、支庁の産業課長、議会から2名、各種団体の推薦で6名、公募枠から5名、その他を含め合計29人で構成され、町の産業課が事務局をつとめています。定期的に関われるものではなく、会長である観光協会長によって随時召集されます。委員会はこれまで年に数回開かれ、予算配分や事業内容について話し合ってきましたが、今年度は特に内容の充実に関心を注いでいます。

公募委員も加わって 私は昨年10月末から経済企業委員会に所属したため、前任者に代わって議員枠でこの会の委員になりました。低迷を続けている島の観光を立て直すために、今ここで様々な試みがなされています。注目すべきなのは、昨年度から都が委託しているプロデューサーがアドバイスしていることと、委員のうち5人が公募で決まったということです。これまでにないアイデアと新しい視点が加わりました。

予算はいくら これまでは、恒例の数々のイベント費用、新聞・電車の車内広告などの広報宣伝費などに、毎年約4000万円が組まれていましたが、観光客減少に対する緊急対策事業として17、18年度は大幅に増額されました。集客2万人を目標にかかげて、集客努力を依頼する旅行代理店への集客事業費(2000万円)、広告費(2000万円)、海遊魚まつり(1000万円)と宝探し(800万円)、恒例の各種イベント事業(1800万円)などで合計およそ8000万円です。増額分が観光客増加に結びついていない点については、議会で何度か論議されました。



効果は おりしも一昨年10月からプラス1万人キャンペーンが始まり、島をあげて目標達成に向けて力が注がれました。一方、旅行代理店による集客はまだはっきりとした成果を見せていません。私は議会で、成果がでないのに昨年と同じ予算を組むのは納得できないと指摘しましたが、町は今後伸びてくと予想されるので長期的な視点で推移を見守ってほしいとのことでした。しかし、住民にもっとも見えにくいのが、この部分であり、今後も委員会の中でしっかり監視するのが大切だと思います。

戦略チームの役割 新しい試みのひとつが、チームにわかれて具体的な議論を深めていることです。昨年行なわれた「島おこし実行委員会」で集約された観光の課題を、具体的に解決するためのものです。チームは、①宿泊施設の改善 ②観光サインの改善 ③観光施設の改善 ④体験メニューの充実 ⑤島内交通の改善 ⑥広報宣伝活動の改善 ⑦イベントの改善 ⑧中之郷地域観光産業総合開発 と8つあり、各委員は重複して2～5つに入っています。私は、④「体験メニューの充実」と⑧「中之郷地域観光産業総合開発」に属し、すでに数回会合がもたれました。今後は、住民にはっきりわかるような成果がでるよう、着実に実行に移していきたいと思っています。

12月議会審議から

補正予算審議、決算審査のいずれにおいても、大きく取り上げられたのが、税金の滞納と徴収の問題でした。今、どの自治体でも「滞納と徴収」に頭を抱えているようですが、八丈町でも年々滞納額が増えています。マスコミでくりかえし報道された給食費の未納問題は、八丈町にもあります。そのほか、町都民税、国保税なども合わせて滞納している人もいますので、事態は深刻です。議会では、滞納者対策、徴収方法の改善を望む声飛び交いました。町が地元紙に異例の広告を掲載したことから、町の苦しい事情が理解できるのではないかと思えます。

コーヒーぶれいく



視聴覚ホールは「ひのき舞台」

八丈高校の視聴覚ホールは、高校生の学習活動の場としてだけでなく、文化フェスティバル、各種団体の発表会、講演会などひろく町民に利用されています。最近美しいドレス姿での独唱やフラダンスも見られました。高校生の吹奏楽も見事でした。私もたびたび足を運んでいますが、ここ数年の充実した活動にはただ驚くばかりです。

それは、出演するみなさんの熱意と努力によるところが大きいのですが、もうひとつの理由として視聴覚ホールという「ひのき舞台」ができたことがあげられます。かつて開かれた様々な発表会が、音響も空調も不十分な体育館や公民館で行なわれていたことを思うと隔世の感があります。ホールが作られる過程で出された、「文化ホールとしての要素を盛り込んでほしい」という住民の要望の、すべてがかなえられたとは言えませんが、このホールが出来たことで、活動団体のみなさんは大きな目標がもてるようになったのではないのでしょうか。

高校に問い合わせたところ、17年度実績で、年間22団体が71回利用し、利用者数はのべ6000人を越えています。また、町民が利用するのは土・日と祝日なので学校運営と両立できているそうです。利用する団体はみなとても協力的で、ホールやトイレの利用状況もよく、あとかたづけもきちんとされているとのことでした。これからも高校の協力を得ながら、町民に関わられたこの施設を、地域に根付いた文化活動の核にしてほしいと願っています。

編集後記

2期目のニュースレターは少しデザインを変えてみました。内容も、人々の暮らしをすくような取材を中心としたものに変えていきたいと思い、今回は婦人会の方々がお弁当をつくっている作業中に邪魔をし、お話をうかがいました。ご協力ありがとうございました。この他、議会をはなれたプライベートな部分も取り入れ、楽しく読みやすいレターにしたいと思います。議会から皆さんに送る「議会だより」も、最近は表紙をカラーにしたり、写真やイラストを入れたり、親しみやすくするための様々な工夫がされています。皆さんが「議会だより」を通してしっかりと議会の動きを監視していただければ住民が主役の議会に近づいていくでしょう。気軽に開いてみてください。

[このページのトップへ戻る](#)

[議会だよりのページへ](#)

[幸子の表紙ページへ](#)